

# NECのデータマネジメントの取り組み

2026年5月15日

日本電気株式会社

コーポレートIT戦略部門

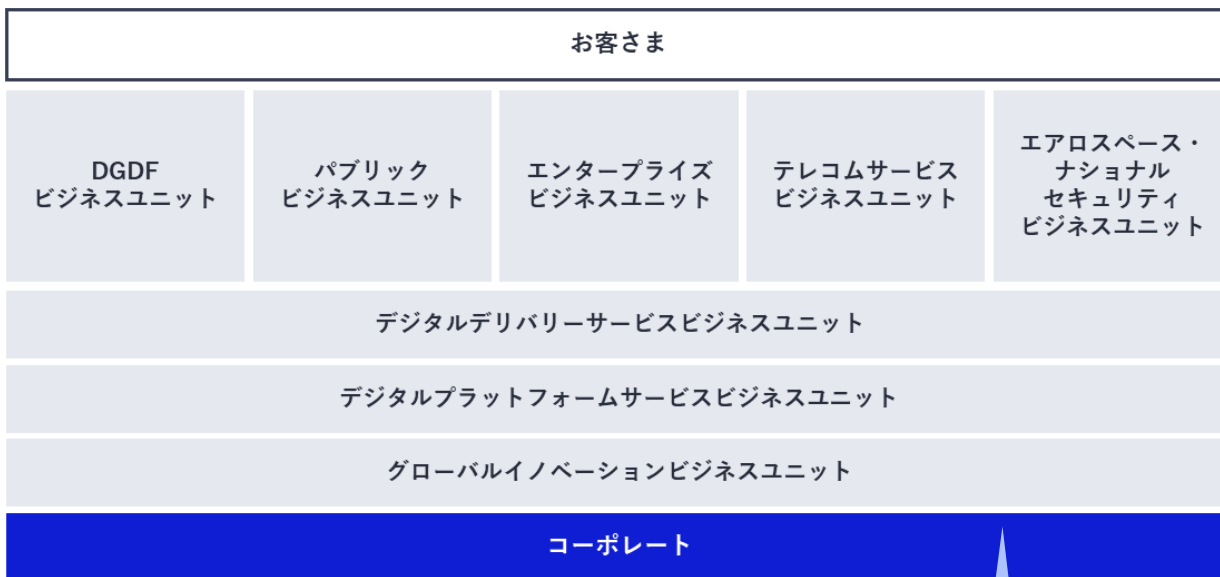
データ&アナリティクス統括部

川嶋 葵

# 登壇者プロフィール

2025年度 ビジネスユニットレベル組織体制

As of 2025.12.1



コーポレート IT 戦略部門  
データ & アナリティクス統括部



## 川嶋 葵

Aoi Kawashima

NEC  
コーポレートIT戦略部門  
データ&アナリティクス統括部  
データマネジメントグループ  
ディレクター

- 入社以来、情報システム部門で、全社規模のIT改革や業務プロセス改革プロジェクトに参画するなど、社内ITに従事。
- 2018年度、One Dataプラットフォームの前身となるデータ利活用基盤を立ち上げ、データ利活用の社内サービスを展開。
- 2022年度、データマネジメントの専門組織を立ち上げNECのデータドリブン経営の中核となるデータマネジメントをリード。
- 現在は、データ戦略、データ/コード標準化のCoEとしてNECグループ全体のデータガバナンスに従事。

# 目次

1. コーポレート・トランスフォーメーション
2. データドリブン経営の目指す姿
3. データマネジメント

# 1. コーポレート・トランスフォーメーション

# 成長を支えたコーポレート・トランスフォーメーション

— 2012 ——— 2017 ——— 2018 ——— 2019 ——— 2020 ——— 2021 ——— 2024 ——— 2025 —

**構造改革断行** → **2018中計 取り下げ** → **カルチャー変革 RISE 1.0 「変わることの拒絶」を払拭、変化の受容へ** → **カルチャー変革 RISE 2.0 「変わり続けることが文化」の会社**

NECの存在意義の見つめ直し  
安全・安心・公平・効率

カルチャー変革本部設立  
社長タウンホールミーティング など

人・カルチャーの変革

**グローバルシステム基盤構築** → **経営がコミットしDXに着手** → **本格的なコーポレート・トランスフォーメーションを加速**

2008  
基幹システム再編  
(SAP ERP導入)

2014  
シェアードサービス化  
(NECマネジメントパートナー設立)

2016  
オンプレデータ利活用基盤導入

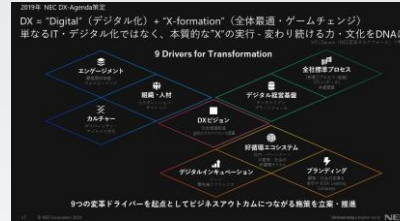
## 変革タスクフォース

経営幹部による変革タスク  
フォース活動とコミットメント



## DX Agenda策定

人・組織・文化の変革を含め  
改革を牽引する 9 Drivers



- nec.comドメイン一本化
- OneNEC.com (情報共有基盤)

## CEO直下 “Transformation Office” 設立



2021/6/14  
コーポレート・  
トランスフォーメーション  
変革プロジェクト 記者会見

経営・事業の高度化、組織対応力強化により  
ビジネスアウトカム創出

「クライアントゼロ」として  
“活きた変革ノウハウ”をお客様と社会に還元

# <社内DX変革全体像> Purpose実現と劇的なビジネスアウトカム・インパクト

中計目標

戦略

EBITDA成長率 年平均9%

文化

エンゲージメントスコア50%

## 全社エクスペリエンス変革

### 働き方のDX



多様な人材が集う  
選ばれる企業

人の力を解放  
放つ  
モダンワーク

### 営業・基幹業務のDX



プロセスを変革の要に  
データを価値に

データドリブン経営 &  
マネジメント変革

### 運用のDX



Digital Native  
統合運用モデルへ

人はより付加価値の  
高い領域へシフト

統合エクスペリエンス

シームレスな体験・プロセス変革による“つながる”価値創出（デジタルID、ServiceNow、Celonis）

DATAプラットフォーム

One Data / One Place / One Fact で企業価値を最大化（ダッシュボード、データカタログ）

ITインフラ & セキュリティ

クラウドネイティブでセキュアな次世代プラットフォームによるアジリティ & レジリエンス実現

## 2. データドリブン経営の目指す姿

# NECのデータドリブン経営

経営層から社員まで同じデータでファクトに向き合い、未来志向のアクションへデータを起点にビジネススピードを最大化

## ファクトに向き合う

経営コックピット



ダッシュボード  
(CxO領域ごと)

10領域98種

投影のみ



End to End プロセス標準化

ベースレジストリ整備

KFP（経営・ファイナンスプロセス刷新PJ）による  
一気通貫でデータが流れるコーポレート経営基盤

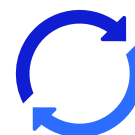
## アクションを実行

迅速な意思決定



経営層

1. 報告を待たず、自ら状況を把握し課題を特定
2. スピーディな指示



同じデータを共有

プロアクティブな対応



社員

1. 課題を深掘り検討
2. 提案・実行

# データの民主化

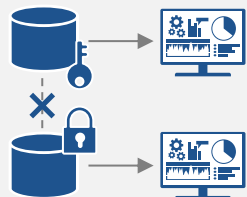
経営ダッシュボードを基軸にデータを民主化し、データドリブン経営の変革を目指す。

## これまでの課題

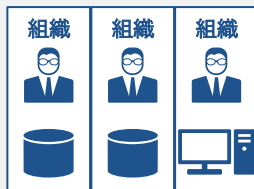
必要なデータがすぐに使えない  
(データのサイロ化)



ほしいデータが  
みつからない



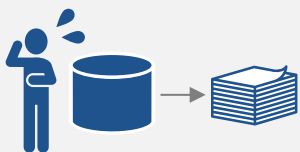
ばらばら  
(データ結合困難)



組織毎にデータ整備  
(組織固有)



組織毎のレポート  
でマネジメント



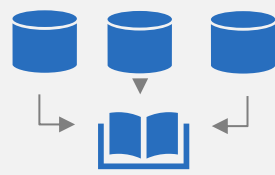
資料作成に忙殺  
検討不十分



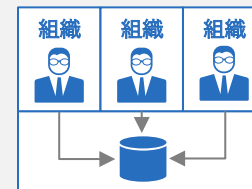
勘・経験・度胸に  
基づいた意思決定

## 目指す姿

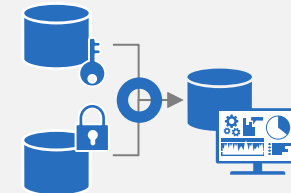
必要な時に必要なデータが使える  
(データの民主化)



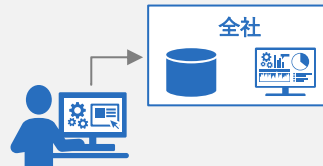
データの所在管理



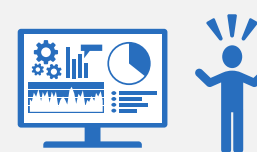
データ標準化/一元化  
(共通言語)



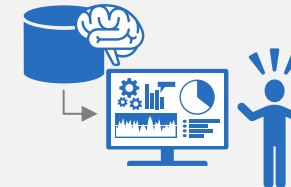
コード標準化  
(データ結合容易)



標準レポートで  
マネジメント



資料作成から解放  
検討に注力



BI×AI等の分析に  
基づいた意思決定

# データドリブン経営の取り組み

各CXOと連携して、**One Data・One Place・One Fact**でのデータドリブン経営を実現  
経営ダッシュボードを基に意思決定できる**マネジメント変革**

One Data

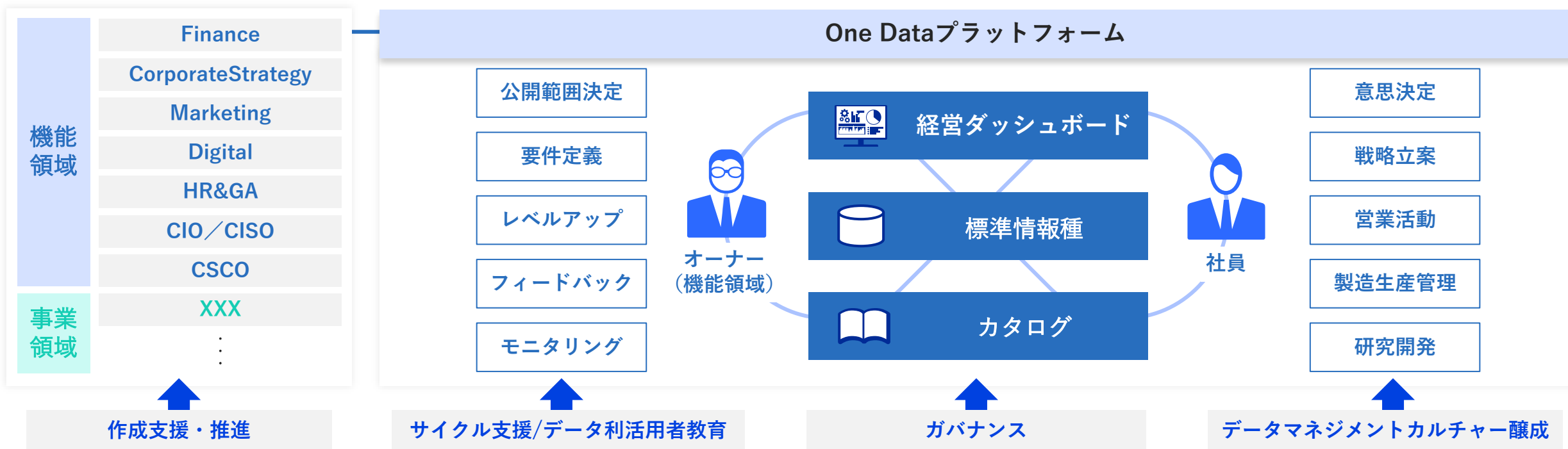
One Place

One Fact

データを共通言語化（標準情報種/カタログ）

標準情報種・カタログの一元管理  
オーナーがデータ・レポートの信頼性を確保

経営ダッシュボード・標準情報種を基に実現



## 3. データマネジメント

# データドリブン経営に必要な要素

組織全体で同じ方向を向くために**戦略**が最重要。その上でベースとなるデータを蓄積・分析するための**仕組み**を構築し、全社員がデータに基づいた意思決定を適切に行うための**ガバナンス**が必要となる。

## 戦略



### 戦略策定

データドリブン経営における目的、戦略・構想、ロードマップの策定

## 仕組み



### 基盤

データを集め活用するための柔軟な基盤の整備



### 分析/AI

状況に応じた適切な分析・解析やデータ整備の支援

## ガバナンス



### 組織/統制

データマネジメント組織の組成とガイドライン整備



### 人材

社員の習熟状況に合わせて成長を促す人材育成、カリキュラム整備など



### 文化

データ活用文化醸成のための施策の実行など

# データドリブン経営に必要な要素 ～ 戦略 ～


 戦略策定

 基盤

 分析/AI

 組織/統制

 人材

 文化

# データドリブン経営の基本戦略

- 基本戦略としてガバナンス/プロセス/レポート/データの観点で整理。
- 領域別(CxO)に基本戦略について合意し、レポート・データの乱立を防ぐ。

## Governance

### CxOのオーナーシップ獲得

- 領域別オーナーシップの明確化
  - ✓ 各CxOが自領域のデータ利活用を推進することで、データドリブン経営の全社展開を加速

## Process

### Quick Winと改善

- アジャイルな開発の導入
  - ✓ すべての成果物を迅速に開発・公開し、利用者からのフィードバックを基に精度を向上

## Report

### 事業経営レポートの一元化

- 経営ダッシュボードの構築
  - ✓ CxO領域ごとにダッシュボードを構築し、全社員がアクセスできるサイトに一元化

## Data

### データの共通言語化/一元化

- 標準情報種・カタログの構築
  - ✓ CxO領域ごとに共通利用のために結合・加工したデータ（標準情報種）と、データを迅速に見つけるためのデータ辞書（カタログ）を作成し、一元化

# データドリブン経営に必要な要素 ～ 仕組み ～


 戦略策定

 基盤

 分析/AI

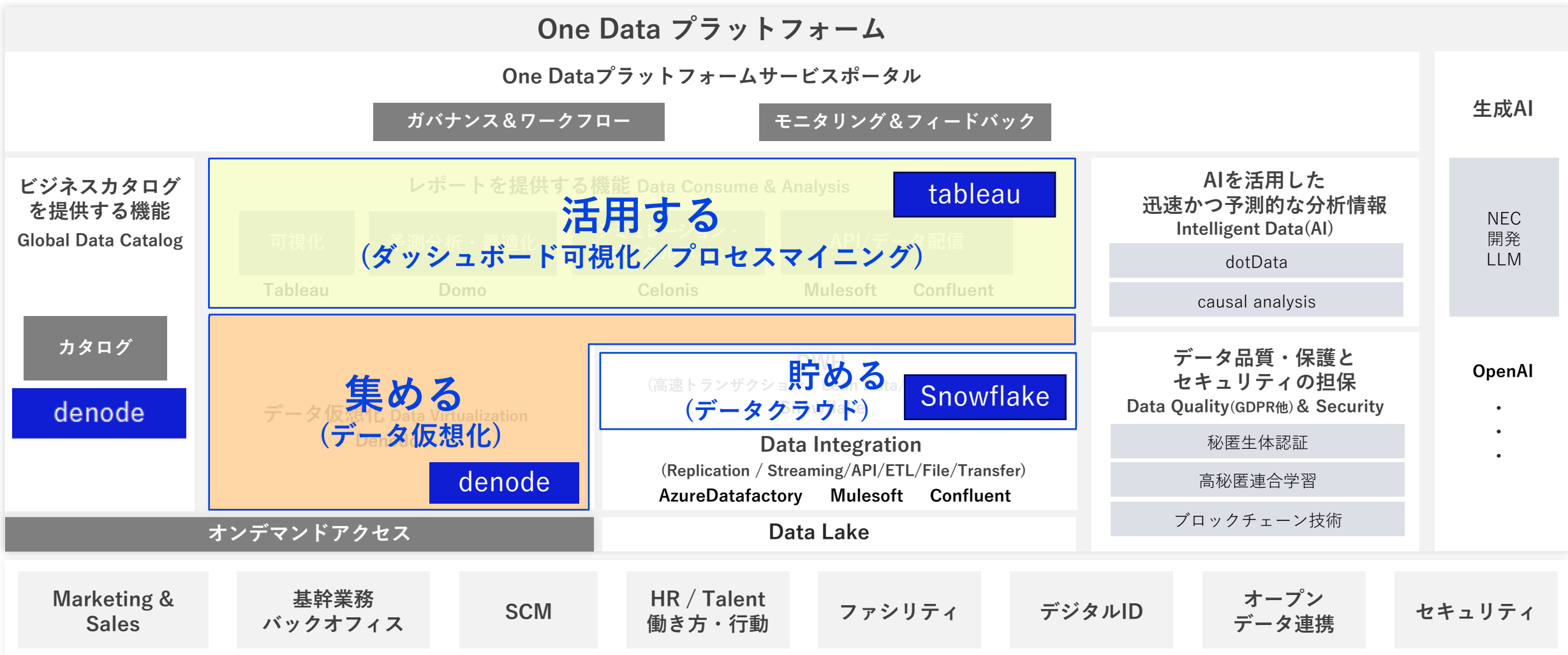
 組織/統制

 人材

 文化

# データ利活用基盤

データを仮想化することで、一元管理をスピーディに実現  
「Quick Win + スケール」「アジャイル」な仕組みで、社内のデータ活用を促進



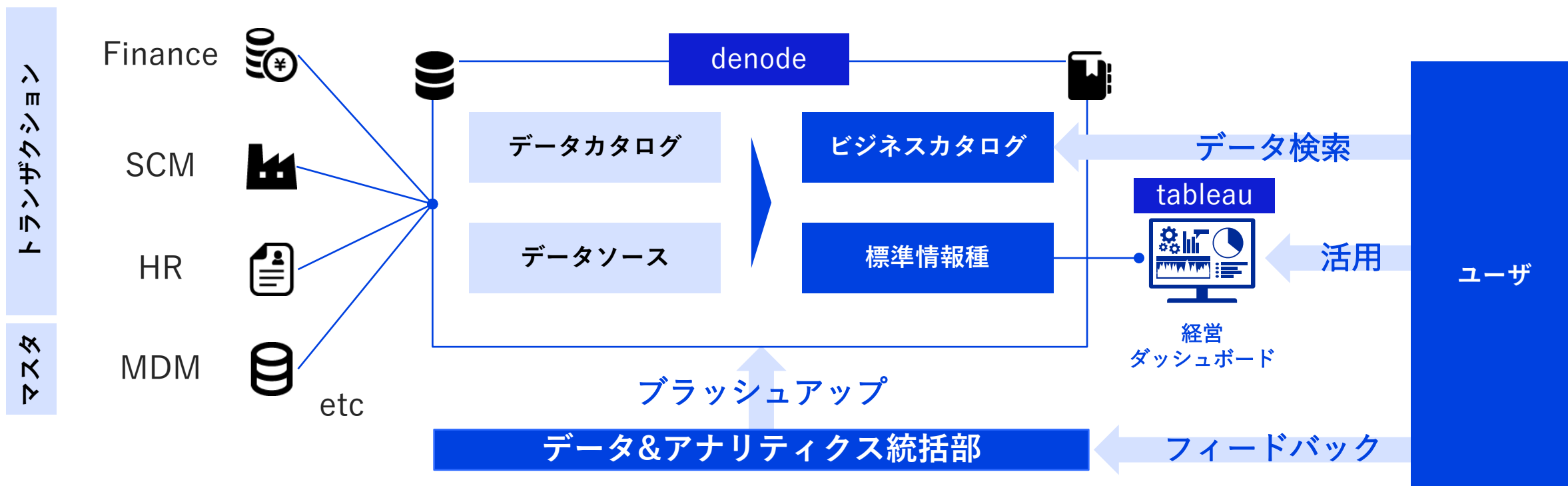
# ビジネスカタログ（標準情報種による共通言語化）

各種システムのデータを、一般のユーザがデータ利活用し易いように編集  
 ビジネスカタログ・標準情報種として一元化して提供することでデータの民主化を図る

システム起点のデータ整備

ビジネスデータとして活用・ブラッシュアップ

システムデータを汎用的で利活用可能なビジネスデータへ



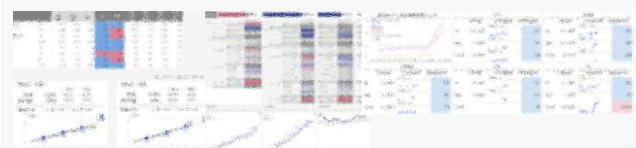
# 経営ダッシュボード

CxO領域ごとのダッシュボードを一カ所に集約（CxO領域10領域・ダッシュボード98種）  
誰もが知りたい時に知りたい情報にアクセス

## COO(Social Infrastructure)



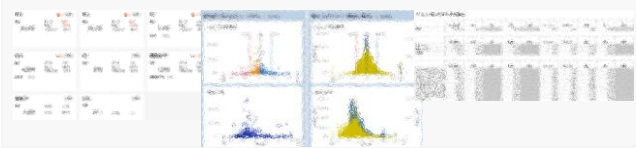
COO 山品正勝



## Finance



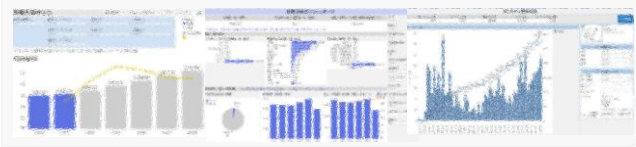
CFO 藤川修



## Corporate Strategy



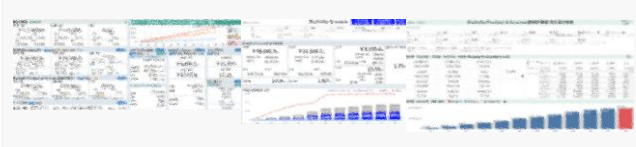
CFO 藤川修



## Digital



CDO 吉崎敏文



## Human Resources & General Affairs



CHRO 堀川大介



## Information



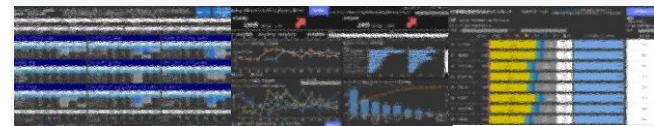
CIO 小玉浩



## Information Security



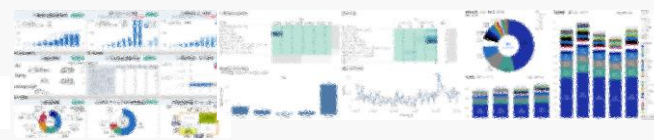
CSO 中谷昇



CISO 淵上真一



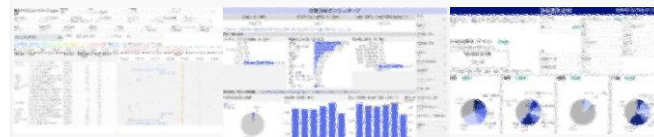
## Supply Chain

CSCO  
井手伸一郎

## Marketing



CDO 吉崎敏文



## Technology



CTO 西原基夫



# 経営コックピット

ダッシュボードから経営として特に重要なものをピックアップして掲載  
 経営層～社員がクイックに確認、影響度合いに応じダッシュボードで詳細確認


ESG経営指標    新ブランドの成長度合い    社員のエンゲージメント    セキュリティインシデント    IT障害状況

CEO・CFO自ら執務室やスマホで活用



# データドリブン経営に必要な要素 ～ ガバナンス ～

 戦略策定

 基盤

 分析/AI

 組織/統制

 人材

 文化

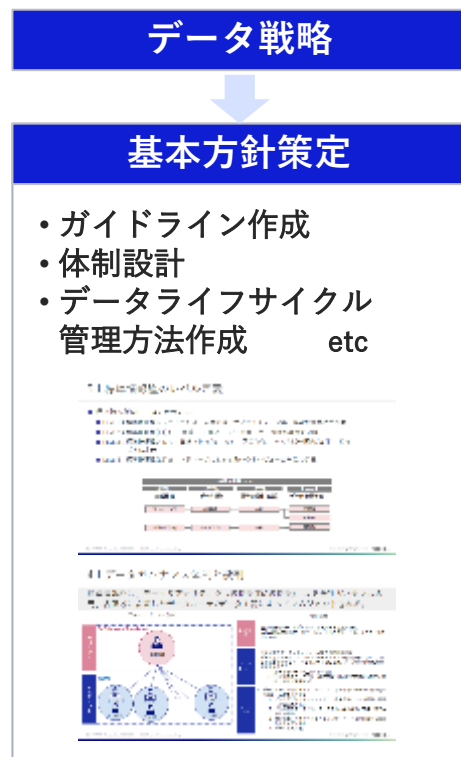
# データの統制

DA統括部がデータマネジメント全体を統治するための基本方針を策定し、改善点を随時反映。領域とDA統括部が連携して実行することで、ガバナンスの効いたデータマネジメントを実現

【凡例】

DA統括部

領域

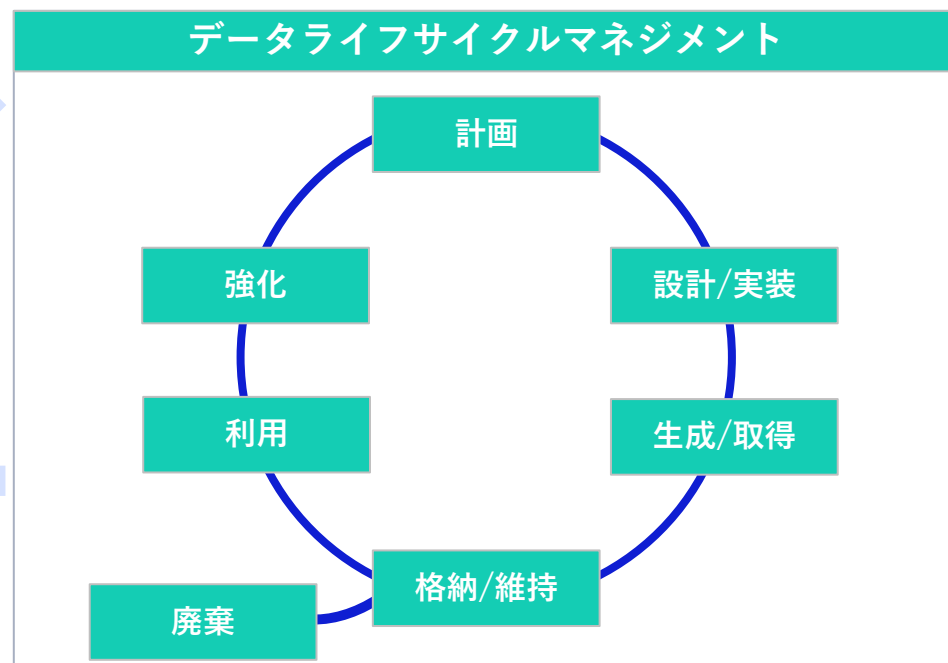


- ・命名規則
- ・運用プロセス
- ・体制と役割
- ・必須成果物 etc



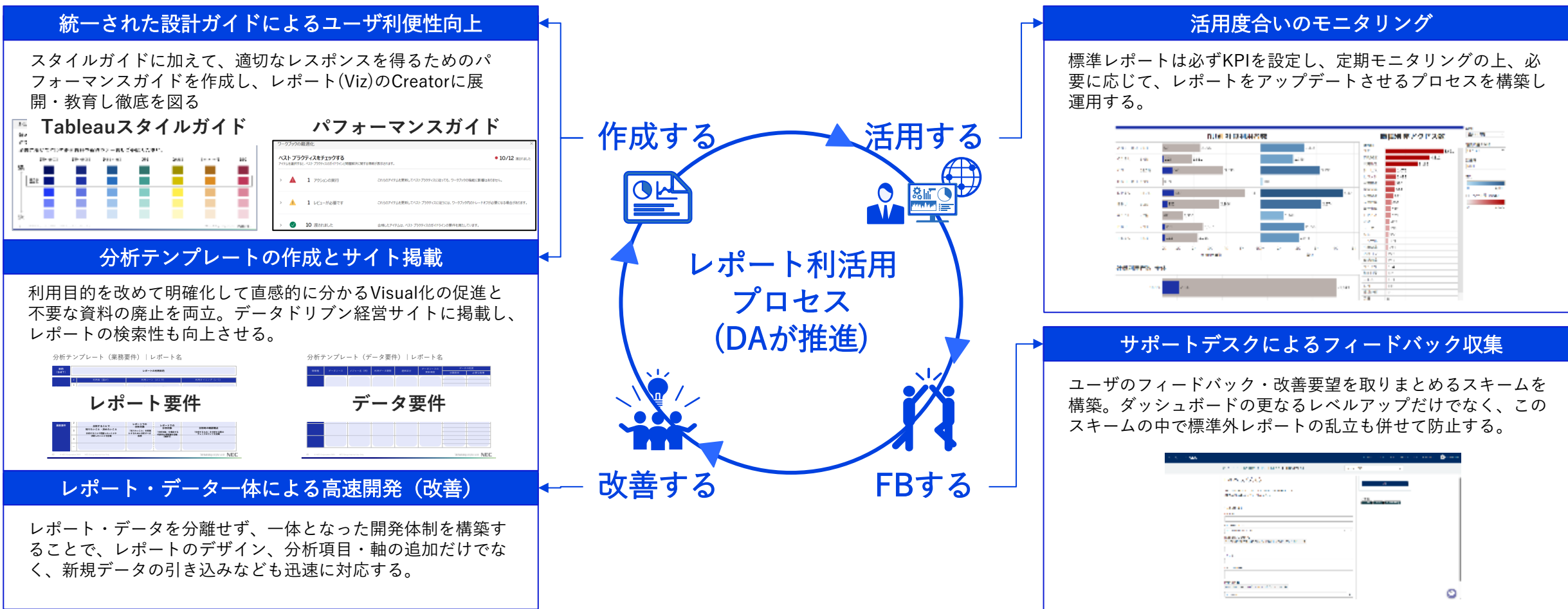
- ・実態に合った内容にブラッシュアップ
- ・現場の生きた知見を反映

領域と連携し、伴走型でDA統括部が支援



# レポートの統制

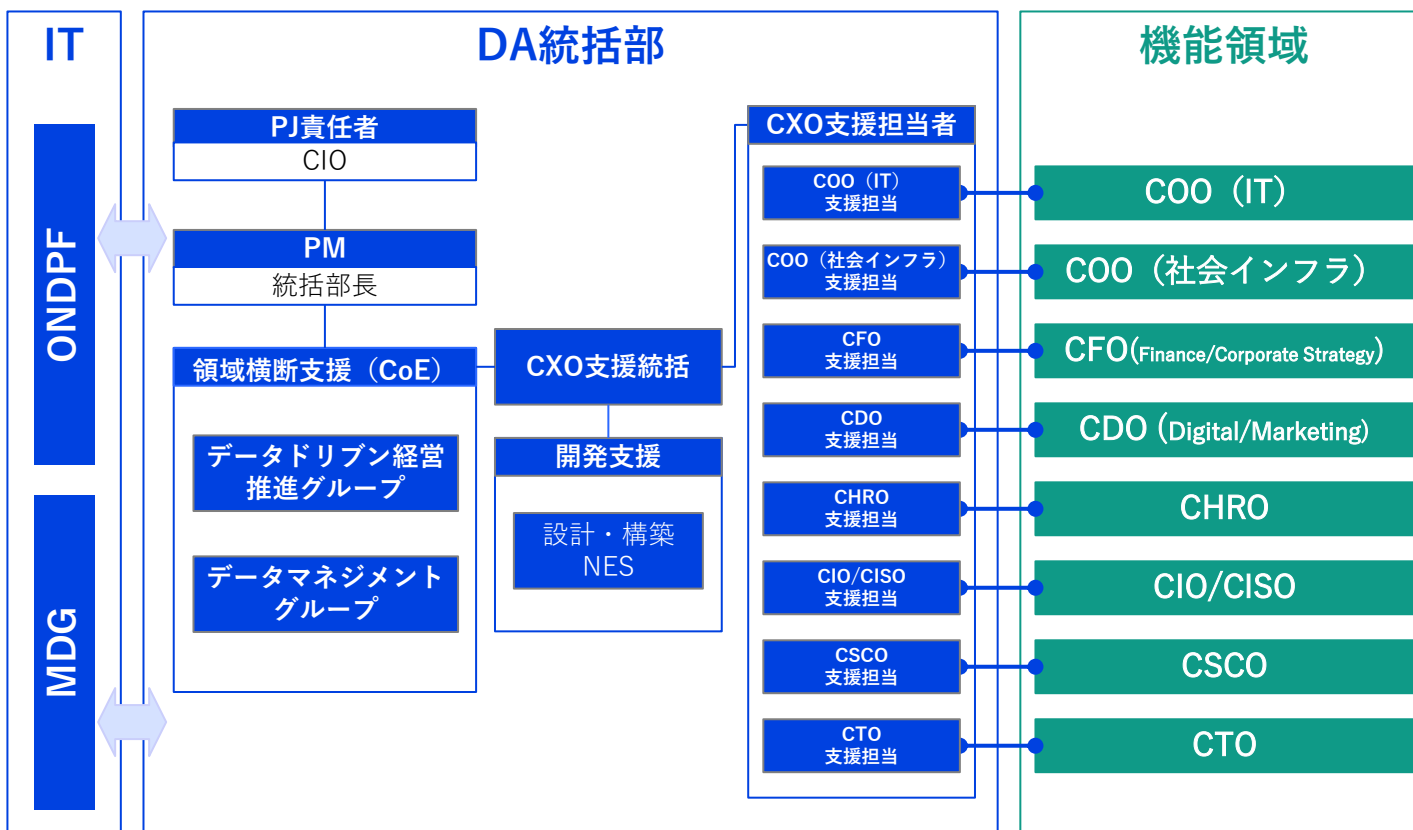
レポート利活用プロセスのポイント毎に具体的な施策を展開することで、開発スピード・ユーザ利便性を向上させるとともに、モニタリング・フィードバックを通じてガバナンスを強化



# 経営ダッシュボード推進体制

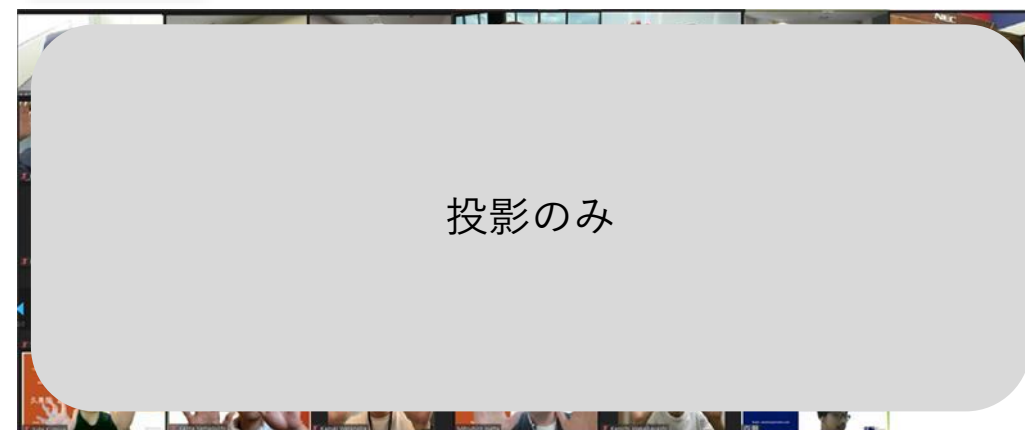
領域オーナー(CxO)のリーダーシップのもとで経営ダッシュボード開発を推進  
 オーナー会議でCxO自らが事例や活用方法を紹介することで、想いを前向きに繋いでいく

## 経営ダッシュボード推進体制



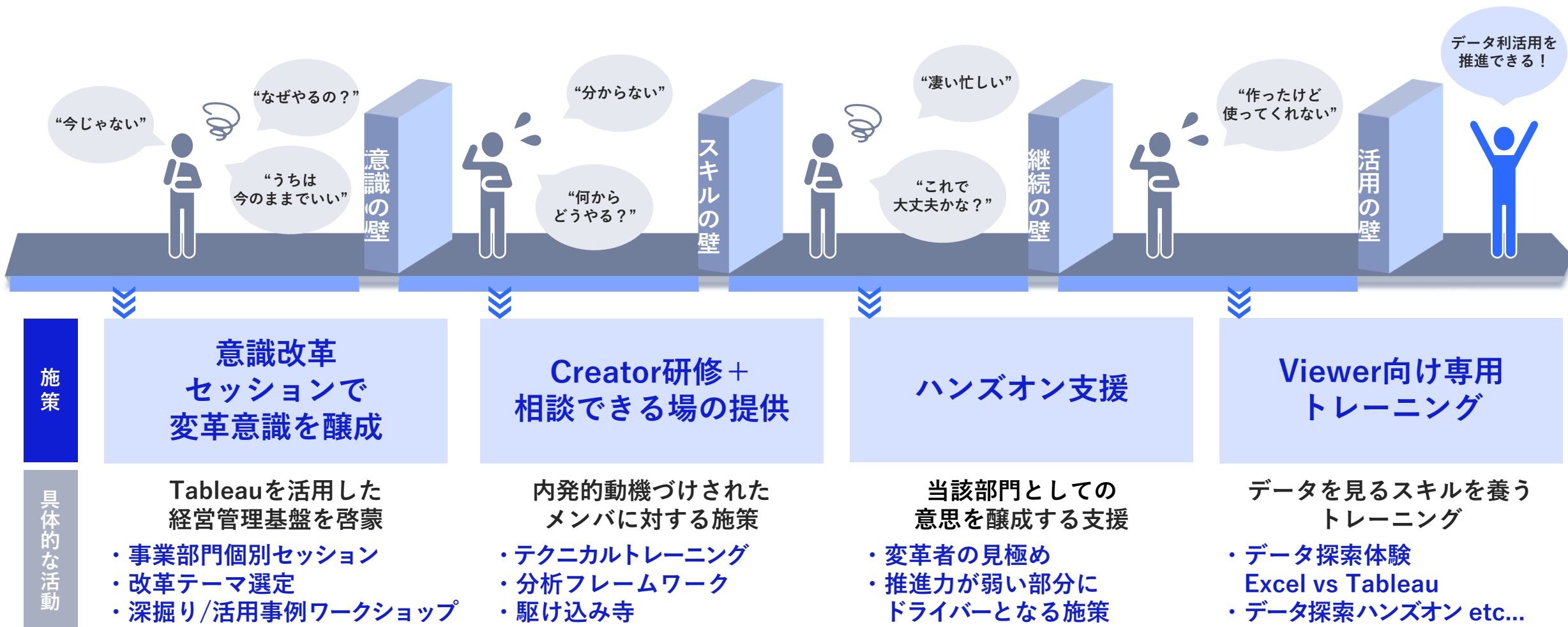
## 経営ダッシュボードオーナー会議

- 目的**
  - 経営ダッシュボードの推進力・想いの維持
- アジェンダ**
  - 経営ダッシュボードの事例・活用方法の共有
  - 領域横断の課題に関する討議
- 開催頻度**
  - 四半期ごと
- 参加者**
  - CxO、領域主管、DA統括



# データ利活用の壁と施策

- 全社横断でのデータ利活用を推進する中で、次々に新しい壁が発覚
- 現場とのコミュニケーションをとり、それぞれ対策を講じて壁を乗り越えることが重要



# NECのデータドリブン経営に向けたポイント

経営層の  
オーナーシップ

ビジョン・方針  
を描く

Quick Win  
と改善

全社横断の視点を持つデータ専門組織  
- 強い想い -